

広報

なんせい

第22号

発行 南西糖業株式会社 編集 総務部

〒891-7621

鹿児島県大島郡天城町兼久高約2337

Tel 0997(85)3125 Fax 0997(85)3129

おかげさまで
創業50周年代表取締役社長
田村 順一

昭和41年に大島糖業と大
洋殖産との合併により誕生し
た南西糖業は、今年5月を
もって創立50周年を迎えま
した。その50年の歴史は、昭和49
年から平成元年までの15年間
を除き、概ね「原料不足との
戦いの歴史」であったと言えま
す。そうした厳しい状況に
あってサトウキビを作り続け
て頂いた農家の皆様、そして、
農家や当社を支えて頂いた行
政、JAなど関係機関の皆様
に先ずは心より感謝し御礼を
申し上げます。私共、役員一
同、「百年企業」に繋げる基盤
をここでしっかりと固める責務
を自覚し、一層の努力をして
参りますので、皆様には今後
ともご支援を賜りますようお
願い申し上げます。

さて私共が皆様に徳之島の
サトウキビ産業再構築を提
唱して今年は4年目を迎えま
す。2年目、3年目には皆様に
収穫面積を大幅に回復して頂
き、また昨年末には当社も4

年ぶりの年内操業を果たしま
した。今年は皆様の単収向上
への取り組みを関係機関と当
社が連携して支援を強化して
おります。行政は平成27年度
の補正予算で品種更新、地力
増進、病害虫対策に係る助成
事業の支援を強化していま
す。当社もこの春には40万本
もの補植用苗の廉価販売や、
100余りの簡易型補植器の
無償貸与などを実施してお
り、夏植えも出来る限りご支
援致します。

皆様にご尽力頂きました
が、次期製糖に係るサトウキ
ビの収穫面積の3年連続の回
復は残念ながら達成出来ま
せんでした。しかしながら皆
様の単収向上へ向けてのご努
力は、通水が始まる徳之島ダ
ムによる灌漑面積が今夏、2
40ha(最終は3451ha)
に及ぶことなどを追い風に必
ず結果として、平均単収は6年
ぶりに5ト台に回復するもの
と私共は期待しております。

徳之島は本来、大きな気象
災害を受けても20万ト以上の
サトウキビを生産し得る素晴
らしい島であります。私共は
サトウキビ産業再構築の鍵は
二工場体制にあると考え、何
としてでもこれを維持し、徳
之島の経済と社会の維持発展
に貢献していく所存です。

いよいよ畑かんが本格始動!



通水式テープカットの様相 (H28.7.21)

昭和58年から手掛け平成9
年度に事業開始した徳之島ダ
ム(徳之島用水土地改良事業)
の完成が間近になりました。
目標の受益面積3451haの
散水が可能となると、既存の
約1000haと合わせて徳之
島の畑地の60%を占める畑地
に水が行き渡ることになりま
す。さとうきびは特に夏場に多
くの水が必要とする作物なの
で、受益効果は絶大になるもの
と期待しています。

先日、7月21日に本事業の
通水式が天城町において盛大
に挙行されました。これを皮切
りに本年度で240haの散水
が開始され、今後次々と通水

地区が拡大し、平成33年度に
は概ねの事業が完了となる見
込みです。

スプリンクラーなどの畑地
内の設備は本来であれば多大
な経費が掛かるところです
が、大部分の費用を国、県、町
が助成し、農家負担は軽微な
ものとなっております。この金額
は水の効果を考えるとほんの
わずかなものですが、事業が
完了してしまうと改めて導入
するのは難しくなります。対
象地域の農家の皆様には、地
区別に行われている話し合い
活動や研修会などにご参加い
ただき、早期に施工同意して
いただきますよう、お願い申
上げます。



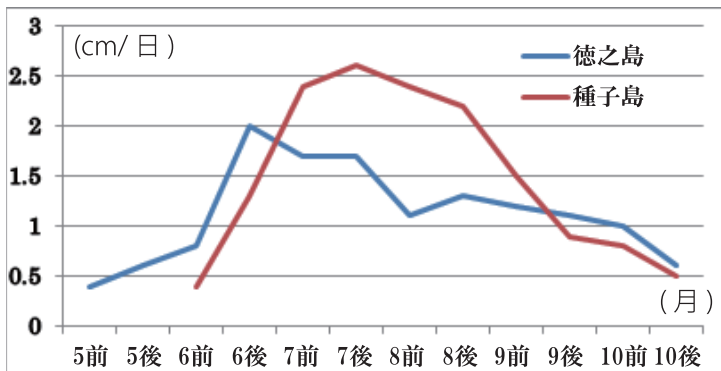
スプリンクラーによるかん水風景

さとうきびの夏場の散水効果

7月から8月のこの時期の徳之島は多くの日照と共に30度を超える高い気温がほぼ確実に続きます。この夕イミングで水を充分にもらったさとうきびは最大で、1日に3cm程の勢いで成長します。さとうきびは高い気温と多くの水があればどんどん伸びてくれる大変生育旺盛な作物である一方、気温が低かったり、与えられる水が無かったりするとすぐに生育を停滞させてしまう、『へそ曲がり』な側面も持つている作物です。そのような性格を持ちあわせているため、収穫時の収入には気温や水の差が結果としてそのまま跳ね返ってきます。

町によっては散水車の貸出しを行っている所もあります。すでにスプリンクラーが設置されている自分の畑があれば、予定通りに設備が稼働しているかどうかを再度ご確認ください。

また、島内にはかん水のモデル圃場が数ヶ所設置してあります。この機会に水の効果を視察してみたいかたがでしようか。



平成27/28年期 原料生産量実績

※小型処理を含む

町名	収穫面積 (ha)	搬入量実績 (t)			実績単収 (kg/10a)
		大型	小型	計	
徳之島町	1,202	53,581	0	53,581	4,458
天城町	1,270	62,013	840	62,853	4,949
伊仙町	1,255	51,691	1,070	52,761	4,204
合計	3,727	167,285	1,910	169,195	4,540

平成28/29年期 作型別収穫面積見込 (7/1)

(ha)

町名/作型	夏植	昨年	増減	春植	昨年	増減	株出	昨年	増減	合計	昨年	増減
徳之島町	93	109	-16	226	253	-27	855	840	15	1,174	1,202	-28
天城町	66	85	-19	232	301	-69	906	884	22	1,204	1,270	-66
伊仙町	77	132	-55	227	283	-56	875	840	35	1,179	1,255	-76
合計	236	326	-90	685	837	-152	2,636	2,564	72	3,557	3,727	-170

平成28/29年産 サトウキビ生育調査 (7/1)

梅雨は短かったものの梅雨明け後、7/7日に島内全域に100mm以上の慈雨があり、ここまでは概ね順調な生育と言えます。茎数は製糖までに淘汰されて減っていきませんが、病害虫対策や管理が十分にできていて製糖時点で平年以上の90本/10㎡が維持できれば収量は大いに期待できます。

作型別生育調査

※茎数は10㎡あたりの本数

調査日	調査項目	本年			昨年			平年		
		夏植	春植	株出	夏植	春植	株出	夏植	春植	株出
7月1日	茎長(cm)	176.3	55.5	89.7	158.9	57.8	90.5	129.6	44.0	75.6
	茎数(本)	97.1	121.1	121.1	118.3	98.4	118.8	109.9	97.6	120.2

めざせ！単収10トン

さて、いよいよ夏植えの季節となりましたが皆様の準備はいかがでしょう。

近年の単収の低下は夏植えについても同じで、過ぎた製糖期の夏植えの島内単収も6ト/10aに満たない状況でした。

もともと夏植えは春植えの2倍程の単収が期待できるものでしたがここ数年は著しく低下しています。以前は、夏植えを早くすると生育が良すぎて収穫に苦労する事や株が立たない等の心配をして、あまり早い夏植えは好まれません。しかし、ここまで単収が落ちてくると、久しぶりにそのようなキビをもう一度作ってみたいという気持ちになりませんか。

平年8月の中旬以降からは比較的慈雨が期待できるものです。それに合わせて、早期の夏植えを試してみたいかがでしょうか。熱帯性の作物であるサトウキビにとっては高い気温は好物であり、水の恵みさえあれば瞬く間に成長します。条件さえそろふことで年内で管理作業が

完了して、後は収穫を待つのみという状態が可能です。

昨年9月初旬の早期にビレットプランター(ハーベスター収穫種苗の植え付け機)で植付けた圃場2箇所の写真です。種苗を多めに植付けたので茎数も多くすくすく育っています。この時期に既にこれだけ生育していると、台風による折損や干ばつに対する耐性も十分にあり、来期収穫量がかなり期待できます。



農林30号(夏植)←



農林22号(夏植)←

【平成28年度夏植えに係る助成事業等の概要】

町別	事業主体	事業項目	内容(行政・会社の負担額等)・備考
徳之島町	町(又は糖業部会)	種苗	有償苗600円(配送+100円)/束
		堆肥	10aあたり約10袋(春植植付面積に対して無償で提供)
		農薬	プリンスベイト、アドバンテージ、ダントツに対して55%助成
		かん水	散水車の貸出(5,000円/日 職員1名付き)
	南西糖業	植付	早期植付33.3haの畝立てとプランタ作業に「南西サービス利用券3,000円/10a」
		種苗	早期の自家苗植付の農家100haに「南西サービス利用券1,000円/10a」
天城町	町(又は糖業部会)	深耕	心土破碎の一部助成1/3又は3,000円/10a
		種苗	有償苗600円(配送+100円)/束
		植付	プランタ植付並びに畝立ての一部(40%)助成
		かん水	散水車の貸出(5,000円/日 半日可)
		土づくり	土壌改良資材助成(上限300kg/10aの50%以内)
			堆肥助成(2t/10aの60%以内)
	その他	各種作業アタッチメント貸出	
南西糖業	植付	早期植付50ha対象「南西サービス利用券4,000円/10a」	
伊仙町	町(又は糖業部会)	種苗	有償苗600円(配送+100円)/束
		土づくり	上限30haの堆肥散布費用の2/3(20,000円/10a)
		かん水	散水車の貸出3,000円/日(半日の利用可)
	南西糖業	土づくり	上限10ha堆肥散布費用2/3(20,000円/10a)
		深耕	上限10ha堆肥散布圃場のプラソイラ等費用1/2(2,000円/10a)

兼久クリーン隊の取り組み

農地保全活動から始まる集落興こし

近年、日本各地で集中豪雨の被害が相次ぐようになりました。昨年は、徳之島でも50年に一度という記録的豪雨に何度も見舞われ、赤土の流失や法面の崩壊などでサトウキビ畑が多数の被害を受けました。そのような中で、集落を挙げて農地の保全活動に取り組む、兼久集落の取り組みを紹介致します。

兼久クリーン隊は、区長の盛岡平一氏を中心に、集落内に農地を所有する約100名の会員により、平成19年に結成されました。近年は、農水省の多面的機能支払交付金(農村の国土保全、水源かん養、自然環境保全、景観形成等の維持・発揮を図る地域活動を支援する)を活用して、集落内で機能していない水路や沈砂池の復旧作業、崩落した農地法面の補修作業など大規模な工事を年次計画で行い、島内各地から視察団の訪問や徳之島地域土砂流出防止対策協議会から表彰を授与するなど、高い評価を受けています。

これらの精力的な農地保全活動は地域住民にも大変喜ばれ、衰退ぎみだった集落活動が盛んになり、伝統行事のむちたばれや盆踊り、更にはグラウンドゴルフ大会やたこあげ大会など、様々な年中行事が盛大に行われるようになったそうです。農地の保全活動から集落を元気にした兼久クリーン隊の活動。今後の活躍が見逃せなくなりそうです。



除去された金属類



運び込まれるハーベスター原料



人手により選別された梢頭部



次は圧搾工程へ(クリーンケーン)

今回紹介させていただくのは、ハーベスター原料からトラッシュ分(夾雑物・ハカマ、土砂、金属類など)を取り除く精脱葉設備(デ・トラッシャー)です。この設備は、トラッシュを分離する機械という造語です。設備の基本的な除去方法は、軽いトラッシュ(ハカマ)は風力による除去、重いトラッシュ(梢頭

部)は人力による除去、土砂は穴の開いた鉄板により除去しています。また、近年は金属検知器を付設し、金属類を人力で除去しています。金属類が工程に入ると故障の原因となり、修理や部品交換のため、工場を止めなければならぬため、金属類の除去は大変重要な仕事になります。

工場に運び込まれる原料のうち、ハーベスターで収穫される原料は約95%、そのうちの約12%位がトラッシュ分となります。トラッシュ分が工場内に入ると効率的に砂糖を作る事ができないため、出来るだけ多くのトラッシュを除去し、きれいなサトウキビが次の工程に入っていくようにしています。

器が作動すると5分程度設備が停止し、多い時には1日60回も停止することがあります。デ・トラッシャーで除去されるものは、園芸パイプ、空缶、農具、工具等色々ありますが、畑に金属類の置き忘れがないようお願いいたします。

人手で選別している梢頭部は、牛の餌として活用され、ハカマは各町の堆肥センターへと運ばれて良質な堆肥作りに欠かせない原料となっています。やっぱりサトウキビは捨てる所が無い、自然に優しい循環型作物だと改めて感じるところです。

次号では、サトウキビを搾る工程(圧搾)を紹介いたします。



シリーズ

職場紹介(デ・トラッシャー)

